

日本東洋美術史の資料学的研究(シ02)

目 的 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究を行い、研究の基盤となる資料の整備を行う。併せて、これに係る国内外の研究交流を推進する。

- 成 果**
1. 美術史研究のためのコンテンツ(年紀資料集成)を作成するため1999(平成11)年以降の展覧会図録から年紀のある作品の資料を順次収集し、データベースソフトウェア FileMaker を使用して入力を行い、新たに500件を追加した。
 2. 本プロジェクトに係る研究会を外部の研究者を交え、行った。
 3. 平成30年度に引き続き、仏教美術等の光学的手法による東京国立博物館との共同研究を実施した。同博物館所蔵の平安仏画(准胝観音像、准胝仏母像)につき、可視光のみならず、近赤外線、蛍光、蛍光X線、透過X線などによる多角的光学調査を行った。
 4. 幕末期の日本製伏彩色螺鈿を対象に、2020(令和2)年1月12日~18日にタイ・バンコク都内のワット・ラーチャプラディット、国立図書館、ワット・ポー等において作品の熟覧調査及び写真撮影を実施した。また、1911(明治44)年にタイに渡り、現地の漆芸分野で技師及び教育者として活躍した三木栄が使用していた、蒔絵道具の道具箱の調査を行った。



ワット・ラーチャプラディット 扉部材の調査

- 論 文**・水野裕史：「雪村周継と臨済宗幻住派」『美術研究』428 pp.1-18 19.1
 ・安永拓世：「伝祇園南海筆「山水図巻」(東京国立博物館蔵)について」『美術研究』428 pp.19-48 19.9
 ・相澤正彦：「静嘉堂文庫美術館本「春日宮曼荼羅」の画風をめぐって」『美術研究』429 pp.1-18 20.1
 ・米沢玲：「研究ノート 二幅の不動明王画像一禅林寺本と高貴寺本一」『美術研究』430 pp.27-40 20.3
 ・山本聡美：「研究資料 「妙法蓮華経变相図」(静嘉堂文庫蔵)にみる南宋時代寧波の信仰と社会」『美術研究』430 pp.49-58 20.3
- 発 表**・津田徹英：「資料紹介 東京文化財研究所架蔵 平子鐸嶺自筆ノート類について一その収載内容とノート類のもつ意義一」令和元年度第2回文化財情報資料部研究会 19.5.31
 ・江村知子：「河原の風景一ライブツイヒ民族学博物館所蔵「四条河原遊楽図屏風」について一」美術史学会東支部例会 19.10.6
 ・小野真由美：「至高の気品一土佐光起撰『本朝画法大伝』の意義、そして意図するもの一」美術史学会東支部例会 19.11.23

研究組織 ○小林達朗、小野真由美、塩谷純、二神葉子、城野誠治、小林公治、江村知子、安永拓世、橘川英規、米沢玲、(以上、文化財情報資料部)、早川泰弘(保存科学研究センター)、津田徹英(客員研究員)